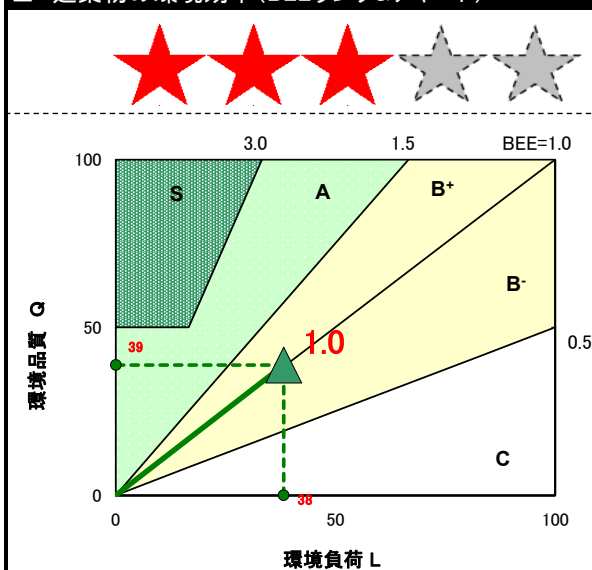


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	TRIAL八代市古閑浜町店	階数	地上1階	
建設地	熊本県八代市古閑浜町2711-1	構造	S造	
用途地域等	0	平均居住人員	3,000 人	
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年3月12日	
敷地面積	11,138 m ²	作成者	株式会社河村佐藤デザイン	
建築面積	4,866 m ²	確認日	2025年3月12日	
延床面積	4,784 m ²	確認者	株式会社河村佐藤デザイン 級建築士事務所	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

50%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

			78
	評価点	■ 熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	88.0	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	77.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	73.5	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

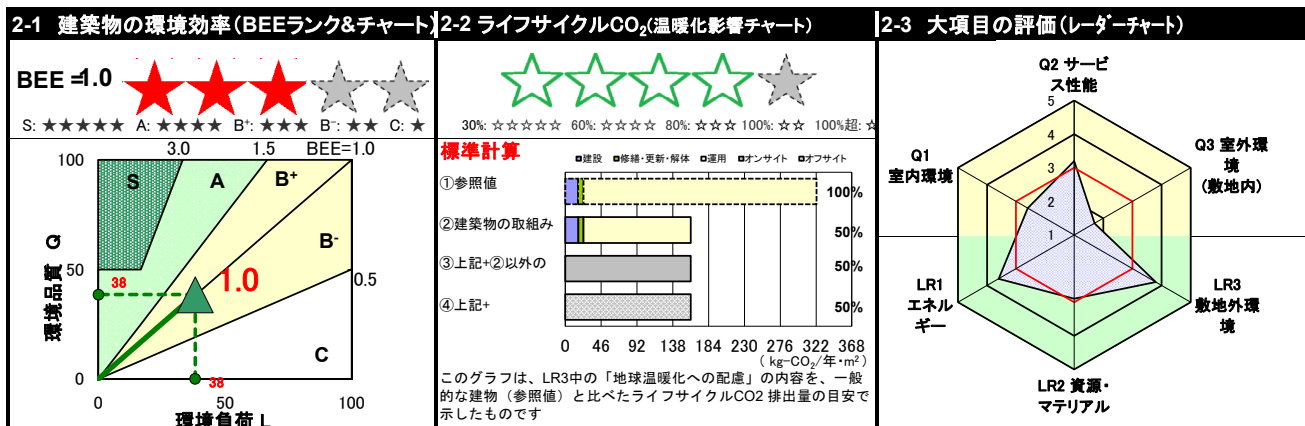
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

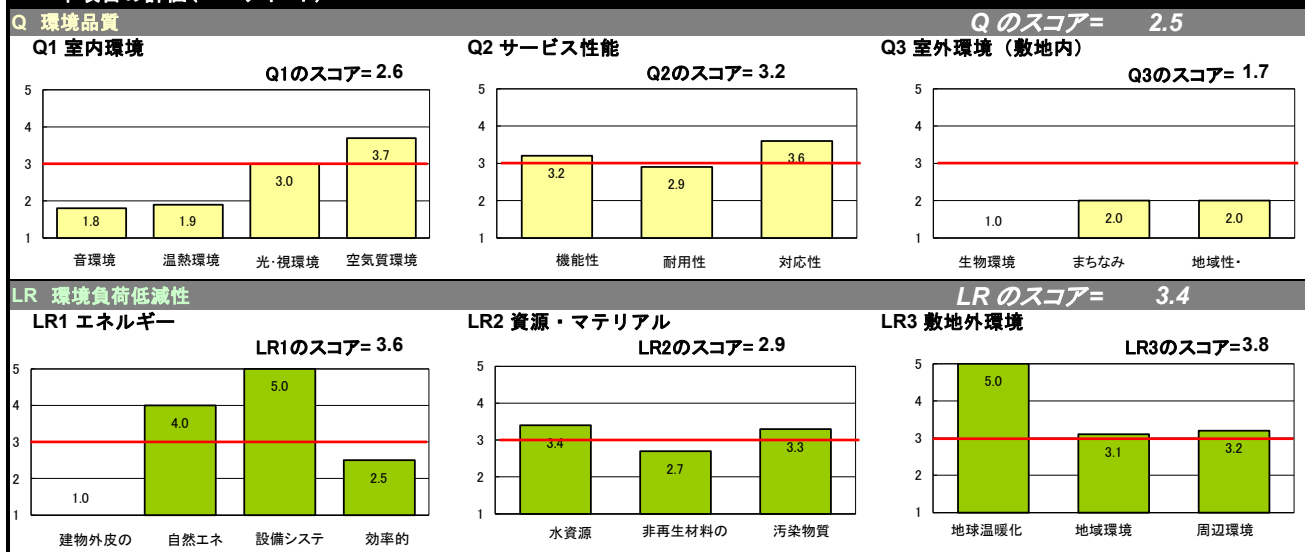
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

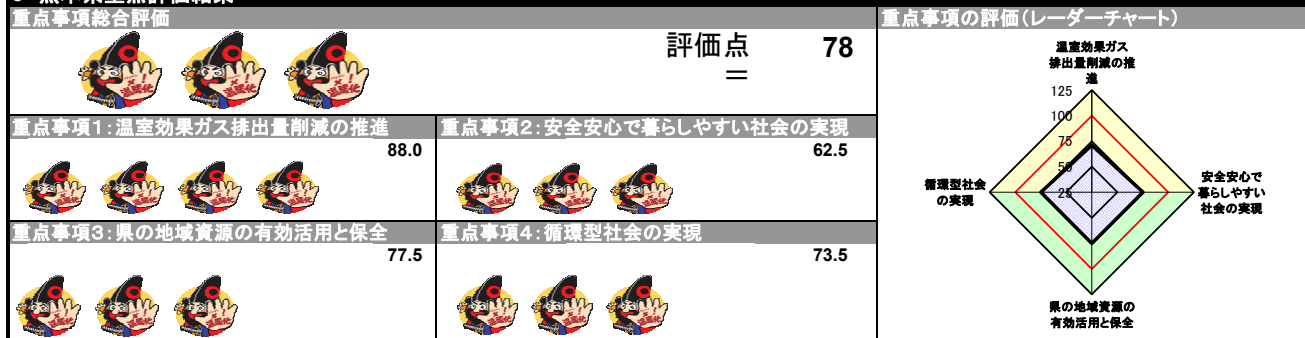
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TRIAL八代市古閑浜町店	階数	地上1階
建設地	熊本県八代市古閑浜町2711-1	構造	S造
用途地域等	0	平均居住人員	3,000 人
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年3月12日
敷地面積	11,138 m ²	作成者	株式会社河村佐藤デザイン一級
建築面積	4,866 m ²	確認日	2025年3月12日
延床面積	4,784 m ²	確認者	株式会社河村佐藤デザイン一級建築士事務所



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 熊本県重点評価結果



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■ 環境関連の配慮事項

TRIAL八代市古閑浜町店

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	不特定多数の方が利用する施設であるため、安全に配慮した設計を目指しております。	
Q1 室内環境	建築材料は全てF☆☆☆☆建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しております。	
Q2 サービス性能	売場の天井高を高く設定することで開放的な空間としております。	
Q3 室外環境 (敷地内)	高温排熱の放出部を設置しないことで、敷地内歩行者空間等の暑熱環境緩和に配慮しております。	
LR1 エネルギー	高効率の機器を採用し、省エネルギーに努めております。	
LR2 資源・マテリアル	節水コマに加えて、省水型機器を採用することで水資源保護に努めております。	
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しないことで大気汚染防止に配慮しております。また、適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、周辺の交通負荷軽減に配慮しております。	
その他	特になし	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	TRIAL八代市古閑浜町店	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88	0.40	35.20
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
TRIAL八代市古閑浜町店

評価点が3超の項目 水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境					0.40	2.6
1 音環境				1.8	0.15	1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	
1.2 遮音				1.0	0.40	
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	
2 界壁遮音性能				-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	
2 温熱環境				1.9	0.35	1.9
2.1 室温制御				2.8	0.50	
1 室温				3.0	0.50	
2 外皮性能				2.0	0.17	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	
3 光・視環境				3.0	0.25	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50	
1 昼光率				-	-	
2 方位別開口				-	-	
3 昼光利用設備				3.0	1.00	
3.2 グレア対策				-	-	
1 昼光制御				-	-	
3.3 照度				-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.50	
4 空気質環境				3.7	0.25	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	
1 換気量				3.0	0.50	
2 自然換気性能				-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	
4.3 運用管理				4.0	0.20	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙、喫煙室の設置		5.0	0.50	
Q2 サービス性能				-	0.30	3.2
1 機能性				3.2	0.40	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	
1 広さ・収納性				-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	
1 広さ感・景観		天井高:3.56		4.0	0.33	
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	
3 内装計画		取組み3つ		4.0	0.33	
1.3 維持管理				3.5	0.30	
1 維持管理に配慮した設計		①②防汚性の高い建材 ③水を利用して洗浄可能(コンクリート直押さえ) ⑤一次扉と二次扉の距離確保 ⑥維持管理方法が大きく異なる床材の接近なし⑩メッキ処理 ⑪段差のない設計		4.0	0.50	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用しEは不使用		5.0	0.20	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	
2.4 信頼性				2.6	0.20	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	
3 電気設備				3.0	0.20	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	
5 通信・情報設備				2.0	0.20	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上(5.36m)	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.07<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる(ケーブルラック、PF管)	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる(ケーブルラック、PF管)	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =1.07	1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= 0.46	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水水栓、節水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		・内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能(LGS下地)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない(グラスウール)	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率50%	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車、駐輪スペースの確保、荷捌き用車両施設の確保、導入路の配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たす ・広告物照明対策ガイドラインチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	